

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連 携 大 学 名)	大阪大学 (京都府立医科大学、和歌山県立医科大学、奈良県立医科大学、 兵庫県立大学、森ノ宮医療大学) 計6大学
事 業 名	地域に生き未来に繋ぐ高度がん医療人の養成
事 業 責 任 者	大阪大学大学院医学系研究科教授 山本浩文
事 業 の 概 要	
<p>第4期がんプロに課せられた各テーマに対応するために、多くの医療職やがん患者、基礎研究者、統計家などの力を集結させる。大阪大学拠点グループとして共に1～3期にがんプロ事業を行ってきた京都府立医科大学、和歌山県立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学に加えて、高齢化したがん患者のリハビリテーションに欠かせない理学療法士・作業療法士や疼痛緩和の一翼を担う鍼灸の専門医療職を養成する森ノ宮医療大学を新たに迎えて6大学で本事業に取り組む。各大学の特色や強みを十分に生かし、全50コース（正規課程コース41、インテンシブコース9）を開講することで全ての課題に重層的に取り組む、力強く対処するところが本事業の特色である。拠点内での連携を密にして高いレベルでのがん教育の均てん化を図り、全国eラーニングを活用し、事業の成果を一層広く普及させることで、地域に生き未来に繋ぐ高度に専門的ながん医療人を養成する。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○各6大学の教育・研究・診療面での特色を活かしたバランスの取れた内容でのプログラム構成であり、50コース中39コースを令和5年に開始できることは十分評価できる。参加大学の特徴をよく活かしており、人材育成効果が十分期待できる。</p> <p>○各6大学で運営委員会を設置し、進捗管理を実施する計画であり、リーダー大学学内外の連携体制や外部評価委員による評価体制など、適切な事業運営体制が評価できる。医師だけでなく、看護師・薬剤師・リハビリ技師・鍼灸師など、多職種の人材育成と有機的な連携が計画されていることは評価に値する。</p> <p>○腫瘍循環器学、老年腫瘍学、腫瘍腎臓病学やがんリハビリなど新しい領域でのプログラムも新設する点は十分評価できる。</p> <p>○遺伝カウンセラーやがんサバイバー対応可能な医療者の育成は全国的にニーズが高く、免疫療法など新しい治療開発や先制医療・ゲノム医療関係人材育成、がんサバイバーシップ、ビッグデータ解析スペシャリストの育成など魅力的な内容も多く成果が期待される。</p> <p>○終末期患者のケア・治療や病理診断など人材育成が強く求められている領域、晩期合併症への対応を含むがんサバイバーに関わる人材養成、CAR-T や腫瘍溶解性ウイルス療法などの新規治療に関わる人材養成など、本事業の要請並びに新たな領域への対応を取り入れた特色ある事業となっている。</p> <p>○和歌山県立医科大学の phase I 国際治験教育など他にはない魅力であり、優れている。</p> <p>○クラウドファンディングの利用やeラーニングの有料化など事業継続に関する取組など十分評価できる。また、補助期間終了後の取組の継続に関する具体的な構想、開発した人材養成モデル等を全国に普及させるための取組が述べられている。</p> <p>○適切な年度ごとの運営計画であると評価できる。また、申請経費の内容は、年度別の計画に照らして概ね妥当である。</p> <p>○コースワークにより、テーマに関する専門的な学修を体系的に履修することができ、教育プログラ</p>	

ムが、がんに関する専門資格と連携している。

○養成目標人数は学生確保の見通しを踏まえて設定されている。

●放射線治療専門医や病理診断医など現場での不足が叫ばれている領域のプログラムに関して、やや募集人数が少ない点を改善いただくことが望ましい。

●拠点地域にがん専門人材を派遣し、がん医療の均てん化を目指す具体的な計画を示すことが望まれる。

●新しい治療開発において、プロジェクトマネージャーなど支援者の育成に関するプログラムなども組み込まれることを期待する。

●達成目標（アウトプット）の記載がわかりにくい。アウトカムである専門資格の種類が少ない。特に、臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーなど、がん予防に係る専門資格は重要である。がん予防エキスパートとの記載があるが、アウトカムとしては不明確である。

●プロジェクトリーダーは決められているが、学部長等をトップとした各診療科・職種横断的な実施体制とは言えない。内容が多岐にわたっていることから各プロジェクト責任者の強いリーダーシップとプロジェクト間、大学間の密な連携を期待する。

●自己点検評価委員や外部評価委員の構成員・評価の頻度、6大学の連携評価体制など、具体的に示すべきである。患者市民参画（PPI）の観点から、外部評価委員会に患者もしくは市民の立場からの評価が行われるのかが明らかではない。

●SNS、動画配信などに関してはアクセス、ダウンロード件数などの評価指標を加えていただくことが望ましい。

●全ての年度で自己点検評価を実施すること、令和5年度から外部評価委員会の開催が望ましい。

●令和5年7月から36コースを開始するという達成目標と事業計画の間に解離があり、時間的に無理があると思われる。

●大阪大学医学専攻・病理専門医養成コース、放射線治療医・研究医養成コースなど、多くのコースにおいて、単に既存の大学院科目を組み替えただけのコースが認められるため、発展的な見直し求められる。

●学内附属病院や研究支援組織等との連携についても不明確であり、診療科や職種を横断した組織的な教育体制となっておらず、各職種のコース履修者が交流・合同参加する学修機会が乏しい。

●養成目標人数は地域医療ニーズを踏まえて設定されているわけではない。